

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第55号 2022年4月

理事長就任あいさつ	井田 秀明
理事長退任のあいさつ	稲田 昂
食品リサイクルで環境大臣表彰【地域特別貢献賞】	山田 英夫
福生市公民館本館主催講座 環境講座	竹本 秀人
Web会議方式を導入した経緯	昆野 俊男
新入会員紹介	長屋 静子 湯端 尊史



玉川上水の春の花:左よりスミレ、キンラン、ツルニチニチソウ、クサボケ、ハナニラ 撮影:川真田直之

理事長就任あいさつ

MECC 理事長 井田 秀明

2021年10月8日付で武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会（以下MECC）理事長に選任されました。

2020年から新型コロナウイルス感染症対応の為の緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が出されたことから、活動は感染防止の観点から中止や見合わせが継続しています。また、定例会議も感染防止の観点からリモート会議形式で実施をしています。

地球温暖化防止の対応として「2050年までにカーボンニュートラルが示され、2030年度の温室効果ガス排出46%削減（2013年度比）、さらに50%削減の高みを目指す」取組が開始されており、環境保全活動の啓蒙と推進する私たちへの期待が大きくなっています。

MECC 定款に目的及び業務として「この法人は地域および地球の環境保全と向上を目的として、調査研究および、市民・事業者・自治体への啓蒙の事業を行なう。」とあり、

- (1) 環境保全のための社会啓蒙および教育の推進
- (2) 環境活動を行なう市民、団体及び関係機関等に対する相談、助言、提言、指導、援助及び協働活動



- (3) 上記(1)、(2)項の事業を行うため必要な調査研究活動が規定されています。

MECC会員の皆様はそれぞれで環境保全活動を実施されていますが、2030年度の高い目標やSDGsの取組が求められています。新型コロナ感染症対応により会員相互の情報交換が少なくなっていますが会員間の情報交換を密にし、感染防止対策を実施して、地域の皆様と一歩一歩行動を行って、地域の皆さんから期待されるMECCになれるよう会員皆様の活動を期待します。

理事長退任のあいさつ

稲田 昂

2016年7月より2021年6月までの5年間、武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会(MECC)の理事長を務めさせていただきました。会員の皆様の運営へのご協力に、ここで感謝を申し上げます。

ここ2年間は新型コロナの感染状況もあり、人が集まるとの地域に根差した活動ができにくい状況になっています。また、会員及び環境カウンセラーの高齢化により、MECCの会員数も少なくなりつつあります。

環境カウンセラーでありながら環境カウンセラー協議会への入会を希望する方の割合も2割前後と少ないのも課題と思います。

新しい動きの1つとして、2021年5月に東京都の4つの環境カウンセラー協議会が1つにまとまって一般社団法人東京環境カウンセラー協会が設立されました。

事業者部門の環境カウンセラーはエコアクション21審査など企業対象の有償の活動が基本にありボランティア活動もできます。自然保全、一般市民への教育などを主テーマとする市民部門の環境カウンセラーの活動でも行政・各種基金等の支援を得、財政的基盤が強くなって、環境カウンセラーの組織として、また環境カウンセラーの一人ひとりの活動を通じて環境・社会に寄与できることを期待します。

食品リサイクルで環境大臣表彰【地域特別貢献賞】

山田 英夫

令和4年1月14日「第4回環境カウンセラー環境保全活動表彰」において、【地域特別貢献賞】を事業者部門にて受賞致しました。

食品ロスを減らすため加工商品のカテゴリーで一番小さな分野である災害備蓄食品に着目した活動を展開(※1)する中で、サプライチェーンの関係者と連携し、リデュース(発生抑制)と食品リサイクルの資源循環の仕組みを評価頂いたのだと思います。今回の表彰は、環境カウンセラー活動をされておられる諸先輩のお力添えによるものであり、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

活動内容は、備蓄食品を寄贈するフードバンク事業を実施するとともに、小、中学校の学校給食に備蓄食品を提供、食品ロスの食育、環境、防災NPOとも連携し、備蓄食品を廃棄せずに生かす食ロス削減の活動を行っています。また、食品リサイクルについては賞味期限切れや管理状態が不良で寄贈できないものを分別し、食品リサイクルの

優先順位の高い飼料化(エコフィード/エコな飼料)を中心に食品リサイクルを進めています。

エコフィードという言葉は聞きなれないと思いますが、輸入飼料の高騰、また食品ロスとされる原料を飼料とすることで飼料自給率の向上等を図る取り組みです。昨年10月には、このエコフィードで育った豚肉による学校給食(かつ丼)と連動した食品ロスの食育教材(食品ロスの教材/『ろすのん』は、どうして泣いているのかな?)を、小平市・日野市・兵庫県の小学校合計24校全生徒に14500部を配布し、食育を実施しました。

また全国の学校へも6000部教材を配布ほか、授業方法をYouTube、オンラインセミナーで提供、また家庭と結びオンライン工場見学を実施し、消費者教育を行ないました。2030年までに食品ロス半減を目指し発生抑制とリサイクルの実務と食育に取り組んで参ります。

(※1)

一般社団法人食品ロス・リポーンセンターの活動

食品ロスの抑制、食品リサイクルの促進、食品リサイクル製品の訴求等を推進するために設立。団体設立後6年を迎え、昨年は消費者庁長官賞、産業環境管理協会会長賞他、各賞を受賞。「食品ロス」「地域活性化」「環境」「防災」をテーマに幅広い関係者と連携したリデュースとリサイクルの2つの食品ロスの取り組みが社会的に評価頂きました。特に学校、給食関係者(栄養士・栄養教諭)との協業プロジェクトに取り組んでいます。



福生市公民館本館主催講座 環境講座

竹本 秀人

川真田監事のご尽力で、SDGs先進都市である福生市の教育委員会より初めての環境講座「人間のくらしと地球のいま」実施をMECCが受託し、令和3年11月21日、12月5日、12月19日の3回シリーズで福生市さくら会館ホールで講座開催した。

福生市教育委員会の今回の講座の趣旨

「環境配慮」「エコ」「SDGs」など、今ではよく聞かれる言葉の背景や、どんな歴史、考え方があるのかをふり返り、日々の暮らしと環境問題の接点を見つめ直す機会とする。加えて、環境に纏わる諸問題が、それぞれどのような関係にあるのか、全体を掴む講座を目指す。

1. 「環境問題の基本」 (竹本秀人)

「江戸時代に学ぶ」江戸時代完全循環型社会の具体例の説明と、福生市にも所縁のある江戸時代開墾された玉川上水等、水の話も踏まえ、付随する江戸時代の環境問題を皮切りに昭和の高度経済成長期ぐらい迄の七大公害問題を含めた現状の説明。

2. 「多様化する環境問題」 (川真田直之)

環境問題で重要な各発生場所を事例として化学物質の大気、水、光化学発生メカニズム等を具体的な数値、地球のエネルギー収支、環境問題への対応を元素の周期律表等を駆使して、対策とその成果を講話。



3. 「身近なSDGsエコシテイふっさ」(一條美智子)

第1回、第2回の講座の振り返り、SDGs等含めた講話、環境問題の整理、市民と市の協働によるまちづくり等の講話。



講師陣。左から筆者、一條美智子、川真田直之

福生市独自のEMSへの取り組みの変遷

福生市は長年環境マネジメントシステムに取り組み、自治体の環境に関するネットワークづくりを目的として、福生市「環境自治体会議」が制定し平成20年度より実施した規格「環境自治体スタンダード」(LAS-E)を土台に、平成26年度以降福生市独自の環境マネジメントシステムF-S(Fussa environmental management systemの略)を運用中。かつSDGs活動として、ゴール13、14、15を主として掲げ取り組んでいる。

今回の講座の受託を基に、引き続き福生市との更なる関係構築を続けて行き、出来ればシリーズ物の講座をMECCで受け持ちたい。

Web会議方式を導入した経緯

昆野 俊男

2020年(令和2年)11月初旬コロナ禍の中、公共の会議室を取るのに苦労していた時に、会員である渡辺正春氏から、顔を突き合わせて行うことが必須でなければオンラインでの開催を検討していただけないでしょうかとの提案がありました。

早速11月例会で少ない出席者に話をし、更に役員の皆様にもメールで集合会議とWeb会議を併用の了承をいただき、12月例会は武蔵野プレイスペースB会議室をメイン会場にWeb会議を試みました。比較的使いやすいZoomですが、始めてのため参加された会員

の繋がりが不具合、無料Wi-Fiの不安定による切断、会場での音声不具合、無料のための40分での切断等があり、ほろ苦いWEB会議スタートとなりました。

年明けて2021年1月も再度試行予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため首都圏だけ緊急事態宣言が発せられ、プレイスペースもその主旨に従い20時までの使用制限がかかりました。そこで稲田理事長と相談したところ、12月にZoomと契約したので1月から全てをWeb会議に切り替えの提案があり実施に移しました。

2021年1月から2022年3月までは大なり小なりのコロナ禍にありましたが、その間14回の月例会、3回の理事会・総会、その他非公式の会合2回ほど、全部で約20回になり、多少トラブルもありましたが、出席者のご協力で何とかオンラインでの会議が実施できるようになりました。

今回の導入ではオンライン会議を提案いただいた渡辺氏、Zoom契約を決断した前理事長の稲田氏、技術的・実務的サポートをいただいた現理事長の井田氏の各位にこの場を借りて感謝申し上げます。

まだまだZoomの機能を十分に発揮出来ていませんが、集合会議のメリットを生かしたWeb会議を併用できるようレベルアップを図って行きたいと思っております。



2022年2月例会の一画面

新入会員紹介

長屋 静子 さん

杉並生まれ、日本女子大学住居学科卒。
杜の樹林・水辺の土中環境再生を目指す。

浮世絵・古地図・GIS・世界各地の風景と風土研究、2019年都市形成史・大学院博士後期課程満期自主退学。1988年より水循環と河川工学を高橋裕（東大名誉教授、当研究会名誉顧問、河川調査会）に師事。江戸・東京学を西山松之助（成城大学名誉教授、岩波）門下。1989年鈴木忠義会長（東工大名誉教授・風景論）「東京の水辺を考える市民の会」設立発起人：浜離宮庭園・築地川を守り官民連携環境再生の変換点形成。元建設省土木研究所環境部兼任研究員。都府県市町環境アドバイザー、講師等。



かたはし たかし
渦端 尊史 さん

私は小平市在住、1971年生、厳冬の北海道旭川市で育ち、24歳の頃あるきっかけから”地球環境に貢献できる業界でチャレンジしたい”と一念発起し、南関東にある廃棄物処理会社に勤務、その後、廃棄物処理会社等で経験を積み、現在廃棄物処理のコンサルタント会社で勤務しております。

日本は不法投棄による環境破壊や最終処分場の枯渇等、様々な問題がありますが、幾度となく乗り越えてきた歴史があります。地球温暖化やマイクロプラスチック等、解決しなければならない問題は山積しています。微力ながらこれらの問題解決に貢献できる様、努力して参ります。



編集後記

新型コロナによるパンデミックはビールズが次々に変異し、未だに収束が見えません。その間、MECC会員による活動は個人的な活動のみ細々と実施されました。また皆様への「MECCだより」発行も中断していましたが、これでは駄目だと思いついて再開することにしました。これからも皆様へ私共の活動や情報を発信し続けて参りますので、宜しくご指導・ご支援をお願いいたします。

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒180-0011 東京都武蔵野市八幡町3-1-1 井田 秀明
TEL：042-646-3822
連絡メール：mecc-home@mecc.or.jp
ホームページ：http://www.mecc.or.jp/
編集者：川真田 直之